

愛知医科大学 第4回教員活動状況報告書

令和6年3月

目次

はじめに

1	評価の概況	1
2	評価項目について	2
3	自己評価の結果	
	(1) 結果の評価方法	3
	(2) 医学部	3
	・評価の進め方	
	・学部全体の比較と考察	
	・部門別の比較と考察	
	(3) 看護学部	9
	・評価の進め方	
	・学部全体の比較と考察	
4	今後に向けて	10
	・両学部	
	・医学部	
	・看護学部	
5	まとめ	12
6	添付資料	
	・ご参考1 教員評価表（医学部）教員評価表（看護学部）	
	・ご参考2 部門・所属一覧	

は じ め に

愛知医科大学 学長 祖父江 元

本学の教員評価は、学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）第 109 条第 1 項の規定に基づき、愛知医科大学における教育研究活動の一層の進展に資するため実施する点検・評価のうち、教員活動に関する点検・評価の実施について「愛知医科大学教員評価規程（平成 22 年 11 月 15 日制定）」を定め、平成 23 年から平成 25 年を第 1 回、平成 26 年から平成 28 年度を第 2 回、平成 29 年度から平成 31 年（令和元年）度を第 3 回の教員評価期間としてまとめ、続く令和 2 年度から令和 4 年度の 3 年間を第 4 回教員評価期間として活動し、今回の「教員活動状況報告書」の作成に至りました。

今回の「教員活動状況報告書」では、これまでの 3 回の評価結果と今回の評価結果を比較し、大学の方針に基づき実施された取り組みにより、教員活動にどのような変化があったかを考察することとしました。

教員評価を実施する目的には、（１）評価結果を通して明確になった課題を解決しながら、教員評価の仕組みを活用することで本学の改善や発展に結びつけること、（２）社会への説明責任を果たすこと、（３）外部評価機関による点検・評価への対応としており、評価制度を用いた PDCA サイクルの中で活動の変化を確認することは、本学の大学改革への取り組み状況を確認すると同時に、新たな課題を浮き彫りにし、次のアクションにつながるものと言えます。

これらのような目的を持って実施する教員評価ですが、より適正な評価のために、留年率改善の一環で実施していた「学修支援」を教育領域の評価項目に追加するなどの見直しを実施しました。

また、平成 31 年（令和元年）度に受審した医学教育分野別評価に基づく自己点検評価報告書で、「教員個人の臨床業績評価」が今後の課題であると指摘されたため、他大学や本学医学部教員に対してアンケート調査を実施し、今後の臨床業績評価の取扱いを検討しています。引き続き、大学改革を推進する重要な役割を担えるよう、教職員が一体となり鋭意取り組んでまいります。

1 評価の概況

(1) 自己評価の提出状況について

提出数推移（過去 6 年）

	第 3 回教員評価			第 4 回教員評価		
部門	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
医学部	392 名	378 名	358 名	357 名	354 名	369 名
看護学部	39 名	36 名	38 名	39 名	43 名	40 名
合計	431 名	414 名	396 名	396 名	397 名	409 名
提出率	100%	100%	100%	100%	100%	100%

＜提出率 100%継続のための取り組み＞

① 教員評価制度の適正な実施への理解促進

医学教育の国際標準化問題への対応における医学教育分野別評価受審、また、文部科学省による私立大学等改革総合支援事業タイプ I において教員評価制度の活用が求められており、教員評価制度の適切な実施のために対象者 100%の提出が必要となることを周知した。

② 評価表作成のための教員評価ホームページ利便性向上

教員が評価表を作成する際に、受け持ち授業のコマ数、対象学生数などの情報をまとめて閲覧できるよう、学内イントラネット BANANA の教員評価ホームページにおいて各種データを掲載することでホームページの利便性を向上し、評価表作成における作業負担軽減を行った。

③ 評価表に入力方法を明示

実施の有無を入力する評価項目については、「実施有り」ならば「1」、「実施無し」ならば「0」を入力するが、評価表にその説明が欠けていた。そこで、実施の有無を入力する項目については「有（1）無（0）」と明示することで、入力のしやすさを向上させた。

④ 教職協働による制度実施

制度の運用について、教員、職員が一体となって取り組むこととし、委員会において提出率 100%を必達目標と定め、制度運用を教職協働により実施した。

以上の取り組みにより、2016 年度から 2022 年度にかけて 7 年連続提出率 100%を継続することとなった。

2 評価項目について

評価項目については、第4回教員評価において項目の追加と基準単位の変更、ポイントの見直しを行った。(下記参照)

医学部及び看護学部共に基本コンセプト、評価項目のアウトライン、集計ツール等仕組みのベースを同一にした上で、詳細な評価項目等は組織実態に即して若干の相違がある。

ここでは、基本的な評価項目を掲載する。

(詳細は、別紙ご参考1、両学部の教員評価表を参照)

【領域別評価項目】

(1)「教育」領域

- ①学部学生教育、②研修医教育、③大学院教育、④教員教育 (FD)、⑤医療従事者教育、⑥ティーチング・ポートフォリオ、⑦その他

(2)「研究」領域

- ①著書、教科書等、②原著論文、③学会報告、④受賞、⑤外部資金獲得

(3)「組織運営」領域

- ①大学の委員会、②学部の委員会、③病院の委員会、④講座関係、⑤国際交流事業、⑥医学教育分野別評価、⑦その他

(4)「社会貢献」領域

- ①学内講師、②学外講師、学会役職、行政の委員、マスコミ

【追加項目について】

(1) 学修支援

従来から留年率改善の一環として、「学修支援」を一部教員の協力により実施していた。2022年度より医学教育センターを窓口として広く教員に参加を呼びかけて実施することとなり、医学部の教育領域「(1) ①学部学生教育」に2022年度実施分(2021年度評価)から「(k) 学修支援」を追加した。

【基準単位変更について】

(1) 機構派遣監督者

機構派遣監督者は、他の医科大学で実施される CBT や OSCE の「運営監督」を公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構から依頼される業務である。講師以上の教員で運営監督者研修の受講者のみが担当できる責任の重い業務であるため、医学部の教育領域「(g) OSCE」「(h) CBT」にそれぞれ「機構派遣監督者」を2022年度実施分(2021年度評価)から追加した。

なお、機構派遣監督者のポイントについては、外部評価者以上に負担がかかる業務であり、大学を代表して機構に協力していることを考慮して、2023年度実施分(2022年度評価)から10ポイント(前年度5ポイント)に見直した。

(2) 評価者/station(学内)、評価者/station(学外)

OSCE の認定評価者の責務は従来よりも大きくなり、外部評価者として協力が必要なことも増え、内部評価者との差別化が必要となったため、医学部の教育領域「(g) OSCE」の基準単位を 2023 年度実施分（2022 年度評価）から、評価者/station(学内) 5 ポイント、評価者/station(学外) 7 ポイントに分けた。

(3) 科目責任者（主・副共通）

ユニット講義の場合にコーディネーターが置かれるが、ユニット講義は一部の科目に限られているため、医学部の教育領域「(a) 通常講義」の基準単位であったコーディネーターを 2023 年度実施分（2022 年度評価）から科目責任者（主・副共通）に変更した。

3 自己評価の結果

(1) 結果の評価方法

本学の教員評価制度では、3 年毎に評価のとりまとめを行い公表することとしている。2011 年から 2013 年を第 1 回、2014 年から 2016 年度を第 2 回、2017 年度から 2019 年度を第 3 回、2020 年度から 2022 年度を第 4 回とし、本報告書においては、第 1 回から第 4 回の比較による変化を確認していくこととした。

評価結果の解析手順は、対象データを各年の部門ごとに集計し、第 1 回から第 4 回までの平均値を求めた。第 2 回に含まれる 2015 年分については、年単位から年度単位に変更したことにより、第 2 回は 39 月が対象期間となっていることから、第 2 回の値には、調整係数（36 月/39 月＝0.923）を掛けて扱うこととした。

また、領域毎に配点の重みづけに違いがあるため、領域毎の変化に着目し、第 1 回を 100 とし、第 2 回から第 4 回までの各領域の値について比較値を算出して比較を行うこととした。

以降は各学部の比較を行う。

(2) 医学部

【評価の進め方】

3 年間の教員活動の評価は、各教員が「教育」「研究」「組織運営」「社会貢献」の 4 領域の得点を評価表に記入して提出し集計を行った。

医学部の部門は①基礎、②臨床、③その他の 3 区分に分類した。最初に医学部全体の傾向を第 1 回から第 3 回までと比較検証した上で、3 区分それぞれの比較について、検証を進める。

<医学部全体>



(第1回からの比較)

領域別で比較をした場合、教育領域では第2回で80.6%に減少したものの、第3回では109.2%に増加し、第4回では118.8%に更に増加した。同様に、研究領域では153.1%、組織運営領域では119.9%、社会貢献領域で154.3%と、すべての領域において第1回より増加しており、医学部全体の発展が伺える。

(考察)

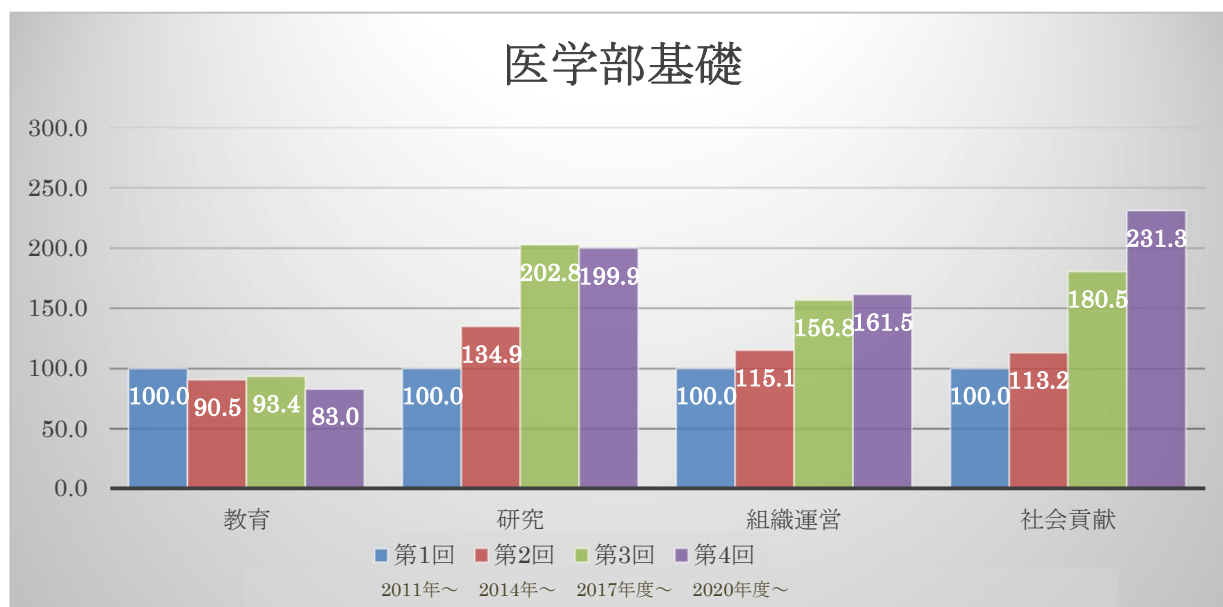
- ① 教育領域については、2019年に日本医学教育評価機構（JACME）による医学教育分野別評価を受審したが、それまでもカリキュラム改訂の取り組みや教育組織の充実などが図られてきた。近年では、コロナ禍に対応した学習環境の整備と国家試験対策の強化を中心に推し進め、教育レベルの質的向上に努める施策に積極的に投資してきた。また、OSCEのトレーニングと実施に必要とされる呼吸音聴診シミュレータを始めとしたシミュレータ機器を整備し、どのような課題が提示されても対応できるようになった。これらの効果が教育領域における全体的な向上となって表れたと考えられる。
- ② 研究領域では、2015年度から始まった若手研究者への申請支援制度「Jump up 作戦」や、具体的な研究活動支援の拠点としての研究創出支援センターの設置が活発化を後押ししている。研究創出支援センターでは、分野横断的に学内研究者を支援することに取り組んでおり、研究技術の指導だけでなく、科学研究費助成事業の申請・採択件数の増強を目指す科研費申請者指導や各種研究に係る論文指導が行われ、同センターに設置されたバイオバンク部門では病院を受診した患者から採取した生体試料や健康診断時の生体試料の収集等を行っている。また、科研費不採択者（A評価）に対する研究費支援事業や、学内で公的研究費等の研究代表者を経験し、研究成果を上げている研究者を代表とする新たな研究ユニットを形成したグループに対して研究費支援を行うなどの取り組みも継続している。さらに、2022年度には国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の創薬基盤推進事業「産学官共同創薬技術活用プロジェクト（GAPFREE）」下で実施

された、東レ株式会社との共同研究「筋萎縮性側索硬化症（ALS）に対する薬効評価技術の確立」もあり、これらの取り組みが研究領域の活発化となって表れたと考えられる。

- ③ 組織運営領域は主に委員会活動、講座関係（医局長、外来医長など）が該当する。本学の中期計画目標達成と永続的发展のため、経営戦略推進本部の下に、働き方改革プロジェクトや救急医療体制改革プロジェクト、地域医療連携推進プロジェクトなどが立ち上がった。また、創立 50 周年に関連したプロジェクトや、2019 年度実施分（2018 年度評価）から追加された国際交流事業と医学教育分野別評価の項目追加の効果もあり、第 3 回から引き続き、組織運営領域の点数増加につながったと考えられる。

- ④ 社会貢献領域については、学内外における公開講座、学外役員の他、行政における委員やメディアへの出演等が該当している。新型コロナウイルス感染症対策として、本学臨床感染症学講座の三嶋教授等による勉強会の開催や、第 4 回日本ヒューマンヘルスケア学会学術集会での発表、「連携病院の機能を知ろう」「退院に向けての地域との情報共有と社会資源」をテーマにした研修会開催などが挙げられる。また、2022 年度には本院と瀬戸旭医師会（瀬戸市、尾張旭市）、東名古屋医師会（日進市、長久手市、豊明市、東郷町）が連携し、愛知県内初のプロジェクトとして尾張東部がん早期診断プロジェクトが始まった。本プロジェクトについては中日新聞に掲載され、名古屋医師会第 3 回健康教育講座「あなたの臓腑詳しく検査してみませんか？」と題した講演会が日進市民会館大ホールにおいて盛況のうちに開催された。さらに、長久手市との連携関係を基盤とした「健康維持・増進を支える次世代先制地域医療：炎症評価コホート研究」では、2022 年 1 月から 3 月にかけて長久手市民を対象に採血等を実施した。獲得した血液検体や健康診断情報を用いて研究を推進し、成果を地域に還元することを目指している。他にも、近隣地域における学外公開講座の継続実施、新型コロナウイルス感染拡大に係るテレビや新聞等のマスメディアへの教員の出演増加も社会貢献領域の点数増加として表れたと考えられる。

<基礎>



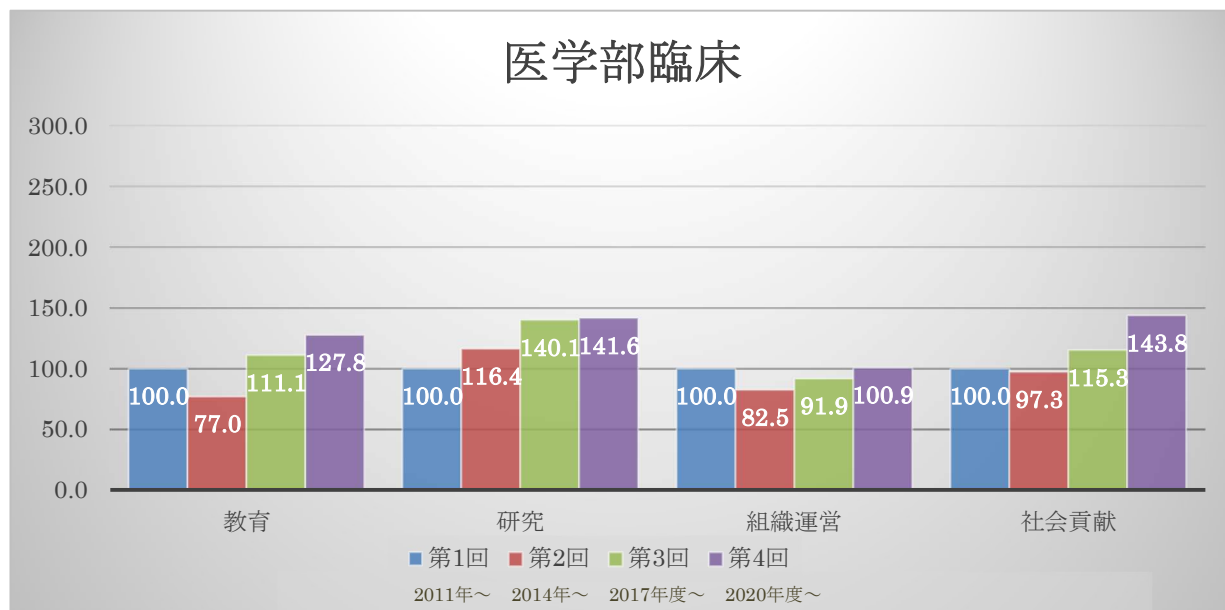
(第1回からの比較)

組織運営領域は 161.5%、社会貢献領域は 231.3%に増加した。研究領域は 199.9%で、第1回と比較すると大きく上昇しているが、第3回と比較すると 2.9%減少している。また、教育領域は 83.0%に減少した。

(考察)

医学部基礎部門では、第3回と同様、医学部のその他2部門と比較して研究領域が活発化しており、医学部全体の研究領域の伸びを牽引している。基礎系教員の研究に対する尽力と、研究機器や環境の整備、基礎研究医養成活性化プログラムを実施して基礎研究医及び病理学・法医学研究医を養成するといった大学全体の研究への支援が結果として表れたと考えられる。教育領域については第2回、第3回と同様、第1回と比較して点数が低下している。この原因としては、第1回から第4回にかけて、医学部基礎部門の准教授と教授の人数減少が続いていることが考えられる。第1回の1年目である2011年4月には21名だった准教授が、第4回の3年目である2022年4月には11名となった。また、教授の人数も2011年4月の22名から2022年4月の15名となっており、どちらも減少傾向にある。しかし、2011年4月には15名だった講師が2022年4月には24名に増加しており、第5回以降の教育領域の得点に何らかの影響があるかもしれない。組織運営領域については、およそ半数の教員に1ポイント以上の得点があり、前回に引き続き上昇傾向でもあることから、教員が積極的に組織運営にかかわるようになってきていると考えられる。社会貢献領域については学会の幹事や行政関係の委員会役員を務めたり、テレビ番組に出演したりする等の活動が増加したことから、第3回と比較して大きく上昇している。

<臨床>



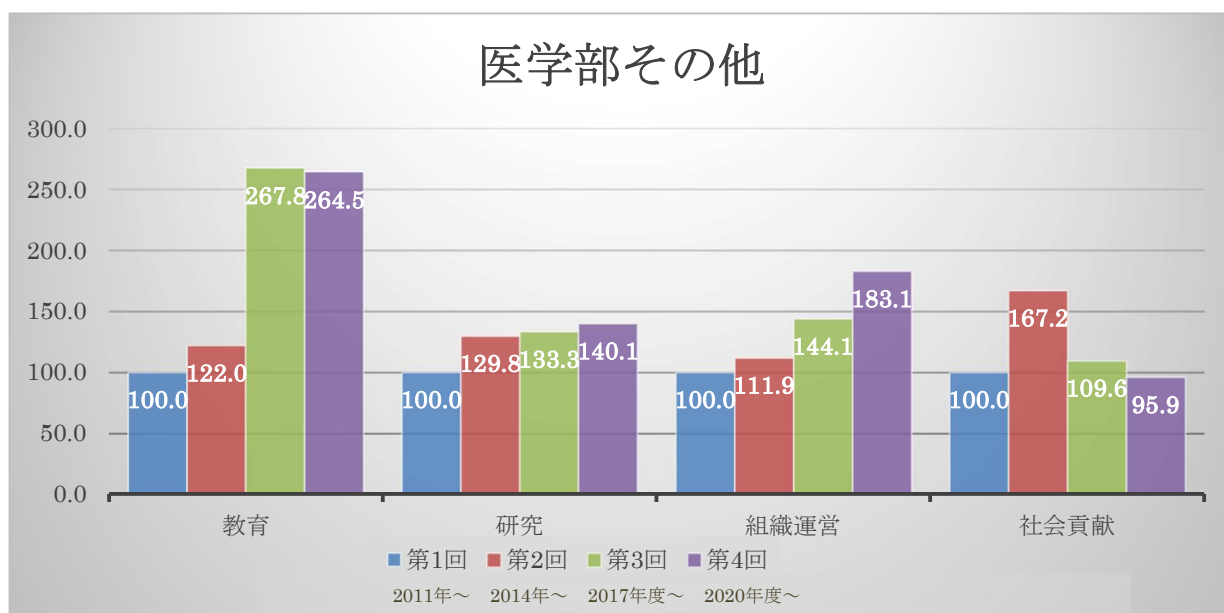
(第1回からの比較)

教育領域は 127.8%、研究領域は 141.6%、組織運営領域は 100.9%、社会貢献領域は 143.8%と全ての領域で上昇した。

(考察)

教育領域、研究領域、組織運営領域、社会貢献領域の4領域が上昇している傾向は、学部全体の傾向と概ね一致している。教育領域では、これまで学習環境整備を推しすすめ、国家試験対策に力をいれてきた結果、第117回医師国家試験で新卒合格率が開学以来初の100%となった。また、より一層の教員の資質向上に資する取組みとして大学院FD・プレFDを実施したが、大学院医学研究科の多くの担当教員が参加し、今後の研究・教育の質の向上に繋がると期待される。研究領域では、AMEDプロジェクトの採択などを受け、科研費などの公的研究費総額が増額された結果、研究の活性化が加速度的に進んでいる。また、学内研究ユニット創出支援事業における臨床医の積極的な研究参加などが研究領域の向上につながったと考えられる。組織運営領域では働き方改革プロジェクトや創立50周年記念事業プロジェクトなどのイノベーションプロジェクトが進行していることが、この領域の活性化につながっていると考えられる。社会貢献領域では、学会の幹事や行政関係の委員会役員を務めたり、テレビ番組に出演したりする等の活動の増加が、第3回と比較して大きく上昇した要因と考えられる。

<その他>



(第1回からの比較)

研究領域は140.1%、組織運営領域は183.1%に上昇した。教育領域は264.5%で、第1回と比較すると大きく上昇しているものの、第3回と比較すると3.3%減少している。また、社会貢献領域については95.9%に減少している。

(考察)

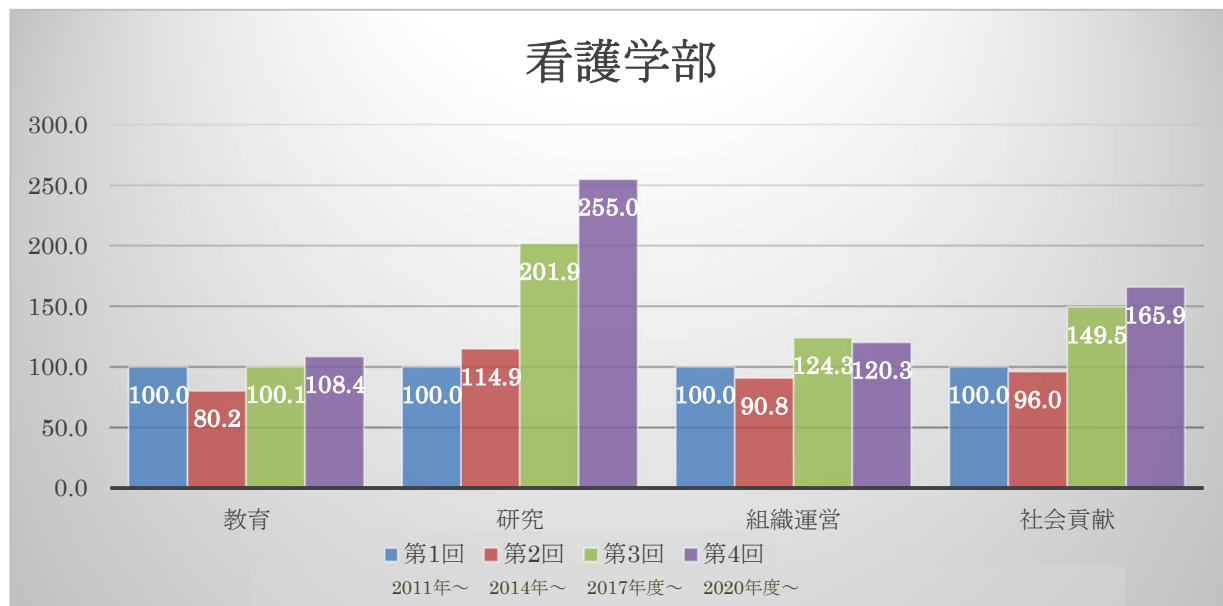
医学部その他部門では、第3回と同様に、医学部の他2部門と比較して教育領域の伸びが高く、医学部全体の教育領域の伸びを牽引している。前回の教員評価では医学教育分野別評価受審による教育改革が進んだが、今回は災害医療コーディネート研修の再開や介護施設等防災リーダー養成研修の実施などもあり、教育領域の活発化は継続している。また、研究領域については、近視進行抑制寄附講座においてオルソケラトロジー（コンタクトレンズによる近視進行抑制治療）の臨床研究が始まった。また、運動療育センターでは、2022年8月に高精度体成分分析装置 IN BODY970を導入し、栄養指導、健康指導、研究等のツールとして活用している。組織運営領域については、医学教育分野別評価推進委員会が医学教育分野別認証評価で部分適合と判定された項目を中心に分析し、医学教育センターとも連携を図りながら年次報告書を作成した。また、次回受審に向けた準備も開始している。社会貢献領域については、学会の幹事や行政関係の委員会役員を務めたり、テレビ番組に出演したりする等の活動は前回から引き続き行われているが、この領域で高得点だった教員の退職等があり数値的には低下した。

(3) 看護学部

【評価の進め方】

3年間の教員活動の評価は、各教員が「教育領域」「研究領域」「組織運営領域」「社会貢献領域」の4領域の得点を評価表に記入して提出し集計を行い、学部全体の傾向を第1回から比較した。

<看護学部全体>



(第1回からの比較)

教育領域で 108.4%、研究領域で 255.0%、社会貢献領域で 165.9%に増加した。組織運営領域は 120.3%で、第1回と比較すると上昇しているが、第3回と比較すると 4.0%減少している。

(考察)

- ① 教育領域については、2022 年度より新カリキュラムが稼働されたため、移行期の再履修においては学生の不利益にならないよう調整を行い、特別開講での対応や学生の学修を担保するための工夫をしている。国家試験対策では、父母会の支援により外部業者から講師を招いての看護師国家試験対策講座を実施した。この講座では新型コロナウイルス感染症対策として対面受講または遠隔受講を選択可能としたり、欠席者や復習希望者のために期間限定でオンデマンド配信を行ったりする工夫がされた。また、看護学部では各講義室の視聴覚機器の更新を実施し学習環境の整備を行っている。これらの取り組みの効果が、教育領域の活発化につながったと考えられる。
- ② 研究領域については、若手教員を対象とした科研費獲得セミナーの実施や、学内研究助成金・共同研究助成金の活用による研究活性化促進などが継続して行われ、研究領域のさらなる活発化につながったと考えられる。
- ③ 組織運営領域については、臨地実習指導者及び看護学部教員間で実習に関するFDを開催し、昨今の学生の特徴と学生の実践能力を高めるための指導の工夫について、グループワークを行った。また、組織運営を担うリーダーに求められる力を検討するために、教授・准教授を対象としたリーダーシップ研修を行った。さらに、オープンキャンパスでは予約制により1日40組

を上限とした人数制限を行い、実習体験や施設見学を学生の案内による少人数のツアー形式で実施するなど徹底した感染予防対策を講じた上で実施した。コロナ禍で各種行事のあり方に変化が見られたことも今回の結果に影響したと考えられる。

- ④ 社会貢献の領域については、附属施設である「看護実践研究センター」のキャリア支援部門と地域連携・支援部門の2部門が、学習機会の提供や地域住民との交流を深めながら健康支援活動を行っている。2022年度には瀬戸市のパルティセとにおいて、大学コンソーシアムせとカレッジ講座「フレイル予防で人生100年時代を元気に生き抜こう！」が開催されたように、看護学部教員による積極的な地域貢献が今回の結果につながったと考えられる。

4 今後に向けて

<両学部>

□教員評価制度の提出率100%を継続

第3回評価から引き続き、第4回評価でも3ヵ年すべてにおいて100%を達成することができた。2016年度以降、教員評価の提出率は毎年100%を維持しており、愛知医科大学の教員活動を適正に評価する体制が整っている。今後もこの100%提出を継続していくことにより、第5回、第6回と年度ごとの正確なデータ比較が可能となり、教員活動における適正なPDCAサイクルの実現や一層の改善を図ることができる。そのために必要な見直しをしつつ、制度を適切に運用し、対象教員からの提出率100%を継続させていくことが重要である。

□教員評価の負担軽減策の検討

私立医科大学および近隣国公立大学各校における教員評価のシステム化状況について、アンケート調査を実施した結果、システム化が進んでいない学校や自前のエクセル等を使用している学校が多いことが明らかになった。本学では教員自身がエクセルの評価表に活動状況を入力して点数をつけているが、この入力作業を負担に感じる教員も存在する。今後も引き続き、システム化を含めて、評価表作成に関わる教員の負担軽減策を調査し、検討していく。

<医学部>

□評価方法、評価基準やパフォーマンス測定について

所属部門や講座、役職の役割を考慮した場合に、一律の評価基準や価値では適切な評価が難しい。また、基礎系教員は研究、臨床系教員は診療など、部門ごとに時間や労力を割く領域は異なっている。今後も、教員からの意見や外部からの情報収集などを通じて、より精緻な評価ができるよう、様々な方策を検討していかなければならない。

□教育領域の改革継続

第4回教員評価の教育領域では、前回の医学教育分野別評価受審後からも継続して、多くの教員が教育の質を高めるための様々な改革に尽力した。その成果の一つが、第117回医師国家試験における、新卒者合格率100%を達成したことである。今後も医学部における学生教育をより良いものとするための方策を更に推進していく必要がある。

□研究活動の活発化

研究創出支援センターでは研究技術指導や科研費申請者指導、バイオバンク部門の設置などを通じて分野横断的に学内研究者を支援している。また、研究費支援事業や学内研究ユニット創出支援事業などの研究活性化対策により、研究領域の教員活動の活発化は継続している。「私立大学研究ブランディング事業」など、社会貢献としての一面を持った研究も継続して行われており、今後ますますの活発化が期待される。

□教員が組織運営に携わる機会の提供

本学では経営戦略推進本部の下にイノベーションに対応したチームを作り、各々に当事者や関係者を集め、プロジェクト型での問題解決を進めている。教員としてだけでなく、愛知医科大学の一組織人としての意識を高め、今後の組織運営を見据えた上で教員活動を行えるようにするため、プロジェクトや委員会などを通して大学、病院の組織運営に携わる機会を提供することが必要である。

□臨床業績評価の追加

2019年度の自己点検評価報告書に「教員個人の臨床業績評価は今後の課題である」と記載されたため、他大学の事例調査や医学部教員を対象にしたアンケートを実施した。これらの結果を踏まえて、第5回教員評価から社会貢献領域に臨床業績評価を追加することを予定しているが、どのような評価基準を設けるべきかについては引き続き検討していく。

<看護学部>

□教育成果の維持と発展

看護学部教員の様々な教育改革は、第3回教員評価から着実に進んでいる。2022年度から新カリキュラムが稼働し、教育評価にかかるアンケート結果を教員間で共有・蓄積する取り組みも始まった。また、看護師・保健師国家試験の合格率100%維持に向けた対策・サポートの充実など、今後も、優れた看護師を育成するために教育の質の向上を常に目指し、今回の成果を維持・発展していく必要がある。

□研究活動のさらなる活発化

前回の教員評価では研究領域の飛躍的な伸びが見られたが、今回もその傾向が継続している。看護学部独自に企画した科学研究費獲得セミナーを継続実施し、若手教員への個別サポート等を実施するなどの研究活性化対策が功を奏したと考えられる。大学の組織的な支援を得ながら研究助成費等の人的資本等への投資により、教育研究能力開発を促進し、看護学部における研究活動のさらなる活発化が期待される。

□積極的な社会貢献活動の推進

看護学部教員の地域・社会貢献活動は、「看護実践研究センター」を中心に行われている。地域・連携支援部門が 2022 年度より参画した長久手市大学連携推進ビジョン 4 U 事業においては、学生が他大学の学生や地域住民との交流をする機会を得られた。このような機会などを活用し、地域のニーズに即した企画を実施することで、将来の看護学生・看護師育成のための基盤づくりの一端を担っている。今後も積極的に社会貢献活動を推進していくことが重要である。

5 まとめ

今回、教員が 2020 年から 2022 年度の 3 年間の業績を自己評価し、第 4 回教員評価を実施した。この教員活動報告書を作成するにあたり、過去 3 回の教員評価との比較により、過去 12 年間のうち、この 3 年間で本学の教員がどのように大学・病院において活動を活発化させてきたか、定量的データをもって考察することができた。

創立 50 周年を迎えた本学では、新型コロナウイルス感染症の流行や働き方改革、18 歳人口の減少など、刻々と変化する環境に適応すべく様々な努力をしている。例えば、教育面では学習環境整備を推しすすめ、国家試験対策に力をいれてきた結果、第 117 回医師国家試験では新卒合格率が開学以来初の 100% となり、新卒者は医師・看護師・保健師の国家試験すべてにおいて合格率 100% を達成することができた。また、研究面では大型 AMED プロジェクトの採択などを受け、科研費などの公的研究費が増額され、研究の活性化が加速度的に進んでいる。これらの成果が今回の教員評価の結果として表れている。

教員評価の導入目的は、評価結果から課題を抽出して改善に取り組むことにある。教員は顕在化した課題の解決だけでなく、今後発生しうる課題を見据え、早期解決と改善に取り組むことが求められている。同時に運営側は環境変化に合わせて、評価の仕組みを検討・改善を繰り返すことで、教職協働を基盤とした教員評価の一層の活用が求められている。教員評価の活用を通じて、自己点検による意識改革や教員個人の教育、研究のレベル向上だけでなく、組織力強化と本学の教育・研究活動の更なる向上へとつなげていくことが重要である。

教員評価表（医学部）

所属	職名	職員番号	氏名	提出期限

領域	2020	2021	2022	合計
1 教育	0	0	0	0
2 研究	0	0	0	0
3 組織運営	0	0	0	0
4 社会貢献	0	0	0	0
総合ポイント	0	0	0	0

領域合計点へ

1 教育	基準単位	ポイント		2022	小計
(1) 学生教育					
(a) 通常講義	1 コマ	2	件数	0	0
	科目責任者（主・副共通）	5	件数	0	0
			ポイント計	0	0
(b) 他の学部／大学の講義	1 コマ（学内）	2	件数	0	0
	1 大学（学外）	4	件数	0	0
	（セルに記載）		ポイント計	0	0
(c) チュートリアル	参加 1 回	2	件数	0	0
	シナリオ作成・BU	10	件数	0	0
			ポイント計	0	0
(d) 基礎実習	1 回/日	1	件数	0	0
			ポイント計	0	0
(e) クリクラA	指導担当	40	有（1）無（0）	0	0
			ポイント計	0	0
(f) クリクラB	1 名	10	人数	0	0
			ポイント計	0	0
(g) OSCE	評価者/station(学内)	5	件数	0	0
	評価者/station(学外)	7	件数	0	0
	機構派遣監督者	10	件数	0	0
			ポイント計	0	0
(h) CBT	問題作成	5	有（1）無（0）	0	0
	ブラッシュアップ(BU)	10	有（1）無（0）	0	0
	試験監督	2	有（1）無（0）	0	0
	機構派遣監督者	10	件数	0	0
			ポイント計	0	0
(i) 総合試験	問題作成	5	有（1）無（0）	0	0
	ブラッシュアップ	15	有（1）無（0）	0	0
	試験監督	2	有（1）無（0）	0	0
			ポイント計	0	0
(j) 入学試験	問題作成	20	有（1）無（0）	0	0
	採点	10	有（1）無（0）	0	0
	面接/回	7	件数	0	0
	監督/回	5	件数	0	0
			ポイント計	0	0
(k) 学修支援	1 コマ	2	件数	0	0
	コーディネーター	5	件数	0	0
				0	0
(2) 研修医教育	1 名	1	件数	0	0
研修指導医講習会	タスクフォース	5	件数	0	0
	講習会参加	2	件数	0	0
	（セルに記載）		ポイント計	0	0
(3) 大学院教育	直接指導/1 名	10	件数	0	0
	（セルに記載）		ポイント計	0	0
(4) 教員教育（FD）	FD出席	2	件数	0	0
	（セルに記載）		ポイント計	0	0
(5) 医療従事者教育	講義/回	5	件数	0	0
	（セルに記載）		ポイント計	0	0
(6) ティーチング・ポートフォリオ	Maharaの更新	2	有（1）無（0）	0	0
	（セルに記載）		ポイント計	0	0
(7) その他	具体的に記載	5	件数	0	0
	（セルに記載）		ポイント計	0	0
			ポイント合計	0	0

領域合計点へ

2 研究	基準単位	単位ポイント		2022	小計
(1) 著書, 教科書等		点/冊			
(a) 著書・教科書 (説明参照)	英文	15	件数	0	0
	和文	10	件数	0	0
			ポイント計	0	0
(b) 参考書等 (説明参照)	英文	10	件数	0	0
	和文	5	件数	0	0
			ポイント計	0	0
(c) その他 (説明参照) (セルに記載)		3	件数	0	0
			ポイント計	0	0
			ポイント小計	0	0
(2) 原著論文	インパクトファクターの調べ方	1 編当たり			
(a) 欧文誌 1	IF $\geq$ 5 1st/2nd/correspond	15	件数	0	0
Web of science ID または PubMedに掲載されている論文	IF $\geq$ 5 others	3	件数	0	0
			ポイント計	0	0
	IF $\geq$ 1 1st/2nd/correspond	10	件数	0	0
	IF $\geq$ 1 others	2	件数	0	0
			ポイント計	0	0
	IF<1 1st/2nd/correspond	5	件数	0	0
	IF<1 others	1	件数	0	0
			ポイント計	0	0
	IFなし 1stのみ	3	件数	0	0
			ポイント計	0	0
(b) 欧文誌 2	1st のみ評価	3	件数	0	0
上記以外の論文	(セルに記載)		ポイント計	0	0
(c) 和文誌 1	学会誌などで筆頭者のみ評価	2	件数	0	0
医中誌に掲載されている論文			ポイント計	0	0
	その他で筆頭者のみ評価	1	件数	0	0
			ポイント計	0	0
(d) 和文誌 2	筆頭者のみ評価	1	件数	0	0
上記以外の論文 研究報告書などもここに記載	(セルに記載)		ポイント計	0	0
			ポイント小計	0	0
(3) 学会報告					
(a) 国際学会	特別講演演者	20	件数	0	0
	特別講演座長	10	件数	0	0
			ポイント計	0	0
	シンポジウム演者	15	件数	0	0
	シンポジウム座長	10	件数	0	0
			ポイント計	0	0
	一般口演演者	10	件数	0	0
	一般口演座長	5	件数	0	0
			ポイント計	0	0
	ポスター発表者	2	件数	0	0
			ポイント計	0	0
(b) 国内学会	特別講演演者	15	件数	0	0
	特別講演座長	10	件数	0	0
			ポイント計	0	0
	シンポジウム演者	10	件数	0	0
	シンポジウム座長	10	件数	0	0
			ポイント計	0	0
	一般口演演者	5	件数	0	0
	一般口演座長	3	件数	0	0
			ポイント計	0	0
	ポスター発表者	1	件数	0	0
			ポイント計	0	0
(c) 地方会レベル	特別講演演者	5	件数	0	0
			ポイント計	0	0
	シンポジウム演者	3	件数	0	0
			ポイント計	0	0
	一般口演演者	1	件数	0	0
			ポイント計	0	0
(d) 研究会レベル	特別講演演者	3	件数	0	0
	一般発表演者	1	件数	0	0
			ポイント計	0	0
			ポイント小計	0	0

(4) 受賞					
(a) 全国レベル	国際レベルに匹敵	50	件数	0	0
	上記以外	30	件数	0	0
			ポイント計	0	0
(b) 地方レベル	地方でトップクラスの賞	30	件数	0	0
	上記以外	10	件数	0	0
			ポイント計	0	0
(c) 学会関係	学会で優れた功績を顕彰	20	件数	0	0
	最優秀演題	10	件数	0	0
	優秀演題	5	件数	0	0
			ポイント計	0	0
(d) その他	(セルに記載)	10	件数	0	0
			ポイント計	0	0
			ポイント小計	0	0
(5) 外部資金獲得					
	研究費(継続年もカウントする)	点/件			
	公的機関の研究助成金 代表	30	件数	0	0
	科研/厚労科研/文科省など 分担	10	件数	0	0
			ポイント計	0	0
(代表のみ評価)	財団・NPOなどの研究助成金 代表	10	件数	0	0
			ポイント計	0	0
	企業との受託・共同研究/件	10	件数	0	0
			ポイント計	0	0
			ポイント小計	0	0
			ポイント合計	0	0

領域合計点へ

3 組織運営	基準単位	単位ポイント		2022	小計
委員会名簿参照	1年間	1委員会あたり			
(1) 大学の委員会	委員	2	件数	0	0
	委員長	5	件数	0	0
	(セルに記載)		ポイント計	0	0
(2) 学部の委員会	委員	2	件数	0	0
	委員長	5	件数	0	0
	(セルに記載)		ポイント計	0	0
(3) 病院の委員会	委員	2	件数	0	0
	委員長	5	件数	0	0
	(セルに記載)		ポイント計	0	0
(4) 講座関係	医局長・講座長病棟・外来医長	5	件数	0	0
			ポイント計	0	0
(5) 国際交流事業	指導担当	1	有(1)無(0)	0	0
			ポイント計	0	0
(6) 医学教育分野別認証	リーダー	5	有(1)無(0)	0	0
	コアメンバー	3	有(1)無(0)	0	0
	メンバー	1	有(1)無(0)	0	0
			ポイント計	0	0
(7) その他	具体的に	5	件数	0	0
	(セルに記載)		ポイント計	0	0
			ポイント合計	0	0

領域合計点へ

4 社会貢献		基準単位	単位ポイント		2022	小計
(1) 学内			点/回			
	公開講座講師	5	件数	0	0	0
	(セルに記載)		ポイント計	0	0	0
	新入生ガイダンス講師	5	件数	0	0	0
	(セルに記載)		ポイント計	0	0	0
	その他のイベントの講師	5	件数	0	0	0
	(セルに記載)		ポイント計	0	0	0
(2) 学外	役職/年	点/役				
	公開講座講師	10	件数	0	0	0
	(セルに記載)		ポイント計	0	0	0
(a) 国際または全国規模の学会	理事・監事	20	件数	0	0	0
	(セルに記載)		ポイント計	0	0	0
	評議員・代議員・幹事	10	件数	0	0	0
	(セルに記載)		ポイント計	0	0	0
	大会長	20	件数	0	0	0
	(セルに記載)		ポイント計	0	0	0
	その他	10	件数	0	0	0
	(セルに記載)		ポイント計	0	0	0
(b) 地方会レベルの学会	理事・監事	10	件数	0	0	0
	(セルに記載)		ポイント計	0	0	0
	評議員・代議員・幹事	5	件数	0	0	0
	(セルに記載)		ポイント計	0	0	0
	大会長	10	件数	0	0	0
	(セルに記載)		ポイント計	0	0	0
(c) 行政	国	委員会などの委員	10	件数	0	0
	自治体	委員会などの委員	5	件数	0	0
	(セルに記載)		ポイント計	0	0	0
	その他	10	件数	0	0	0
	(セルに記載)		ポイント計	0	0	0
(d) マスコミ	新聞・TV報道	全国レベル	20	件数	0	0
		地方レベル	10	件数	0	0
	(セルに記載)		ポイント計	0	0	0
	交流	教育・研究連携	5	件数	0	0
		医療連携	5	件数	0	0
	(セルに記載)		ポイント計	0	0	0
			ポイント合計	0	0	0

教員評価表（看護学部）

所属	職名	職員番号	氏名	提出期限

領域	2020	2021	2022	合計
1教育(看)	0.0	0.0	0.0	0.0
2研究(看)	0.0	0.0	0.0	0.0
3組織運営(看)	0.0	0.0	0.0	0.0
4社会貢献(看)	0.0	0.0	0.0	0.0
総合ポイント	0.0	0.0	0.0	0.0

1. 教育

領域合計点へ

ポイント合計
0.0

(1)学部教育

(a)授業

■科目責任者(教養・専門ゼミも含む)		3点
■試験・レポート採点(問題作成も含む)		1回2点(レポート・定期のみのときは1回、中間を含むときは2回)
■講義		1コマ2点(AB、2クラスに分けて行う場合それぞれ2点とする)
■演習		1コマ1点
■教養ゼミ、専門ゼミ		1コマ1点

授業科目名	学年	学期	講義コマ数	演習／教養・専門ゼミ コマ数	成績評価の有無 (試験・レポート)	定期／中間試験 ／レポートの回数	再試験の回数	科目責任者	ポイント
例)病態治療学Ⅰ	2	前期	15	3	試験	1	2	有	44.0
									0.0
									0.0
									0.0
									0.0

ポイント小計
0.0

医学部授業

授業科目名	学年	学期	講義コマ数	学部名	ポイント
例)分子病態学	3	前期	1	医学部	2.0
					0.0
					0.0

ポイント小計
0.0

(b)実習

■実習		1日1点
■科目責任者		実習期間あたり3点
■成績評価		実習全クールあたり2点

授業科目名	学年	学期	担当日数	追再実習日数	科目責任者	成績評価	ポイント
例)療養生活支援実	3	後期	40	5	有	有	50.0
							0.0
							0.0
							0.0

ポイント小計
0.0

(c)卒業研究Ⅱ

■個人研究		1名10点
-------	--	-------

科目名	研究課題	学生名	ポイント
			0.0
			0.0

ポイント小計
0.0

(d)入試(推薦・社会人)

■問題作成・採点		10点
■面接		5点

試験科目名	実施日	ポイント
例)小論文	2月1日	10.0
		0.0
		0.0

ポイント小計
0.0

入試(一般)

■一般問題作成・採点20点、採点のみ2点	
----------------------	--

試験科目名	実施日	問題作成	ポイント
例)国語	2月1日	問題作成・採点	20.0
			0.0
			0.0

ポイント小計
0.0

(e)国試対策

■補講		1コマ2点
-----	--	-------

補講科目	実施時期	コマ数	ポイント
			0.0
			0.0

ポイント小計
0.0

(f)ティーチング・ポートフォリオ

■更新 Maharaの更新 2点	
------------------	--

更新の有無	ポイント
	0.0

ポイント小計
0.0

(2)卒後教育

■講習会講師 (医大病院看護部に限る)		1コマ2点
------------------------	--	-------

補講科目	実施時期	コマ数	ポイント
			0.0
			0.0

ポイント小計
0.0

(3)大学院教育

(a)授業

■科目責任者		3点
■講義		1コマ2点
■演習		1コマ2点

授業科目名	学年	学期	講義コマ数	演習コマ数	科目責任者	ポイント
						0.0
						0.0
						0.0

ポイント小計
0.0

(b)実習

■実習		1日1点
■科目責任者		実習期間あたり3点

授業科目名	学年	学期	担当日数	科目責任者	ポイント
					0.0
					0.0

ポイント小計
0.0

(c)修士論文

■研究指導教員	20点
■副研究指導教員	5点
■研究補助教員	3点
■審査委員	5点

研究指導教員 領域名	学生名	ポイント
愛知 花子	愛知 花子	20.0
		0.0
		0.0

ポイント小計
0.0

副研究指導教員 領域名	学生名	ポイント
例)精神	愛知 花子	5.0
		0.0
		0.0

ポイント小計
0.0

研究補助教員 領域名	学生名	ポイント
例)母性	愛知 花子	3.0
		0.0
		0.0

ポイント小計
0.0

審査 領域名	学生名	ポイント
例)母性	愛知 花子	5.0
		0.0
		0.0

ポイント小計
0.0

(d)入試

■問題作成・採点	10点
■面接	5点

試験科目名	実施日	問題作成	面接	ポイント
例)老年	2月1日	有	有	15.0
				0.0
				0.0

ポイント小計
0.0

2. 研究

領域合計点へ

ポイント合計
0.0

(1)著書、教科書

教科書分担任執筆

■教科書分担任執筆 英文	2								
■教科書監修編集 英文	10								
■教科書分担任執筆 和文	1								
■教科書監修編集 和文	5								
著者	タイトル	誌名	巻	ページ	年	Pubmed ID	英文／和文	ポイント	
								0.0	
								0.0	

ポイント小計
0.0

教科書監修編集

著者	タイトル	誌名	巻	ページ	年	Pubmed ID	英文／和文	ポイント	
								0.0	
								0.0	

ポイント小計
0.0

DVD

■DVDなど	5	5							
著者	タイトル	誌名	巻	ページ	年	Pubmed ID	ポイント		
							0.0		
							0.0		

ポイント小計
0.0

ガイドライン

■ガイドライン作成	10／作成者数								
著者	タイトル	誌名	巻	ページ	年	Pubmed ID	作成者数	ポイント	
								0.0	
								0.0	

ポイント小計
0.0

(2)原著論文

(a)欧文誌 1

(PubMed掲載有り)

■IF ≥ 5 1st/2nd/correspond	75	インパクトファクター(IF)参照							
■IF ≥ 5 others	15								
■IF ≥ 1 1st/2nd/correspond	50								
■IF ≥ 1 others	10								
■IF < 1 1st/2nd/correspond	25								
■IF < 1 others	5								
著者	タイトル	誌名	巻	ページ	年	Pubmed ID	インパクトファクター	IF区分	ポイント
例) Yamashita	Four paramete	J Hum Genet.	57	368-74	2012	22513715	2.57	IF ≥ 1 others	10.0
									0.0
									0.0
									0.0
									0.0

ポイント小計
0.0

(b)欧文誌 2

(PubMed掲載のないもの、IFのないもの)

■1stのみ(重要な論文である理由)	15								
■IF < 1 others	3								
原著	総説・報告	資料							
著者	タイトル	誌名	巻	ページ	年	区分	ポイント		
							0.0		
							0.0		

ポイント小計
0.0

(c)和文誌1

(全国規模学会誌)

■原著		■総説・報告		■資料					
筆頭者	10	筆頭者	5	筆頭者	2				
2nd/correspond	5	others	1	others	1				
others	2								
著者	タイトル	原著・総説・報告・資料	筆頭者	誌名	巻	ページ	年	医中誌ID	ポイント
例) 井村幸恵、透析室の看護	原著	2nd/correspon	日本環境感染	27	91-95	2012	2012187174	5.0	
								0.0	
								0.0	
								0.0	
								0.0	
								0.0	

ポイント小計
0.0

(c)和文誌2

(紀要その他:査読のある雑誌)

■原著		■総説・報告		■資料					
筆頭者	5	筆頭者	3	筆頭者	1				
2nd/correspond	3	others	1	others	0.5				
others	1								
著者	タイトル	原著・総説・報告・資料	筆頭者	誌名	巻	ページ	年	医中誌ID	ポイント
								0.0	
								0.0	

ポイント小計
0.0

(c)和文誌3

(査読のない雑誌)

■原著		■総説・報告		■資料					
筆頭者	3	筆頭者	2	筆頭者	1				
others	1	others	1	others	0.5				
著者	タイトル	原著・総説・報告・資料	筆頭者	誌名	巻	ページ	年	医中誌ID	ポイント
								0.0	
								0.0	

ポイント小計
0.0

(3)学会報告 (演者は発表者のみをカウント)

(a) 国際学会

■特別講演演者	15
■特別講演座長	10
■シンポジスト演者	10
■シンポジスト座長	5
■一般口演演者	3
■一般口演座長	2
■ポスター発表者	2
■ポスター発表座長	1

学会名	講演の種類	演者	タイトル	年月日	開催地	ポイント
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0

ポイント小計
0.0

(b) 国内学会

■特別講演演者	15
■特別講演座長	10
■シンポジスト演者	10
■シンポジスト座長	5
■一般口演演者	3
■一般口演座長	2
■ポスター発表者	2
■ポスター発表座長	1

学会名	講演の種類	演者	タイトル	年月日	開催地	ポイント
例)第52回日本ポスター	ポスター	衣斐 達、佐橋	ミトコンドリア脳	2011.5.20	東京	2.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0

ポイント小計
0.0

(c) 地方会レベル

■特別講演演者	5
■特別講演座長	1
■シンポジスト演者	3
■シンポジスト座長	1
■一般口演演者	1
■一般口演座長	1

学会名	講演の種類	演者	タイトル	年月日	開催地	ポイント
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0
						0.0

ポイント小計
0.0

(d) その他

■その他研究会などの発表演者	1
----------------	---

研究会名	講演の種類	演者	タイトル	年月日	開催地	ポイント
						0.0
						0.0

ポイント小計
0.0

(4)受賞

(a) 全国レベル

■国際レベルに匹敵	50
■上記以外	30

賞の名称	発行団体	受賞年月日	レベル	ポイント
				0.0
				0.0

ポイント小計
0.0

(b) 地方レベル

■地方でトップクラスの賞	30
■上記以外	10

賞の名称	発行団体	受賞年月日	レベル	ポイント
				0.0
				0.0

ポイント小計
0.0

(c) 学会関係

■学会で優れた功績を顕彰	20
■最優秀演題	20
■優秀演題	5

賞の名称	発行団体	受賞年月日	レベル	ポイント
				0.0
				0.0

ポイント小計
0.0

(d) その他

10

賞の名称	発行団体	受賞年月日	ポイント
			0.0
			0.0

ポイント小計
0.0

(5)外部資金獲得

(a)公的機関の研究助成金

(科研/厚労科研/文科省など)

■公的機関の研究助成金 代表					30
■科研/厚労科研/文科省など 分担					10
研究費の名称	代表・分担	支給団体名	年月	機関	ポイント
					0.0
					0.0

ポイント小計
0.0

(b) 財団・NPOなどの研究助成金

■財団・NPOなどの研究助成金					10
研究費の名称	代表・分担	支給団体名	年月	ポイント	
					0.0
					0.0

ポイント小計
0.0

(c)企業との受託・共同研究／件

■企業との受託・共同研究／件					10
研究費の名称	代表・分担	支給団体名	年月	ポイント	
					0.0
					0.0

ポイント小計
0.0

3. 組織運営

(委員会名簿参照)

領域合計点へ

ポイント合計
0.0

(1)大学の委員会／WG

■委員としての役職ポイントと出席回数を合計する ■委員 2点 出席点 1回0.5点 ■委員長 5点				
委員会名	出席回数	役職	期間	ポイント
				0.0
				0.0

ポイント小計
0.0

(2)学部/大学院の委員会

委員会名	出席回数	役職	期間	ポイント
例)FD委員会	8	委員	H23.4～	6.0
				0.0
				0.0
				0.0

ポイント小計
0.0

学部のWG

名称	出席回数	役職	期間	ポイント
例)防災WG	5	委員	8月20日～	4.5
				0.0
				0.0

ポイント小計
0.0

大学院の委員

名称	出席回数	役職	期間	ポイント
				0.0
				0.0

ポイント小計
0.0

実践センターの委員

名称	出席回数	役職	期間	ポイント
				0.0
				0.0

ポイント小計
0.0

(3)病院の委員会／WG

委員会名	出席回数	役職	期間	ポイント
				0.0
				0.0

ポイント小計
0.0

(4)学部の役割

■学年主任(アドバイザーに加算) 5点 ■副主任(アドバイザーに加算) 2点 ■アドバイザー 1学年3点 ■学校医 10点 ■ハラスメント相談員 5点				
	※新規有／無	学年	期間	ポイント
学年主任				0.0
学年副主任				0.0
アドバイザー				0.0
学校医				0.0
ハラスメント相談員				0.0

ポイント小計
0.0

入学試験(大学入学共通テストを含む)

■一般入試		■推薦・社会人入試	
本部長	5点	本部長	3点
本部長	2点	本部長	1点
会場責任者	3点	(会場責任者、健康診断委員長も兼ねる)	
会場副責任者	1点	試験監督	1点
健康診断委員長	1点	大学入学共通テスト1点	
試験監督	1点		
受付・救護	1点		
採点補助	1点		

試験名	役職	月日	ポイント
例)一般選抜	監督	2月1日	1.0
一般選抜			0.0
推薦・社会人選抜			0.0
大学入学共通テスト			0.0

ポイント小計
0.0

試験監督

■試験監督 1回0.5点			
試験名	学年	月日	ポイント
例)病態治療1中間	2	6月25日	0.5
			0.0
			0.0
			0.0

ポイント小計
0.0

学部各種行事への参加

■学部行事			
■新入生研修	企画委員5点	参加1点	
■救命講習会	企画委員2点	参加0.5点	
■防災訓練	企画1点	参加0.5点	
■FD研修	企画1点	参加0.5点	
■キャンドルセレモニー	委員1点		
■短期海外留学	引率10点		
■オープンキャンパス	参加1点		
■一日体験入学	参加1点		
■予防接種	1回0.5点		
■高校訪問	1校0.5点 (役割に高校名、件数は高校数)		
■大学説明	参加1点		
■紀要査読	1件1点		

行事名	役割	月日	※新規 日数(件数)	ポイント
例)新入生研修	企画委員	4月20, 21日	5.0	5.0
				0.0
				0.0
				0.0
				0.0
				0.0
				0.0
				0.0

ポイント小計
0.0

■その他役割 1回 0.5点				
行事名	役割	月日	日数	ポイント
				0.0
				0.0

大学院入学試験

■本部長 3点	
■本部長 1点	
■(会場責任者、健康診断委員長も兼ねる)	
■試験監督 1点	

試験名	役職	月日	ポイント
			0.0
			0.0

ポイント小計
0.0

大学院行事への参加

■準備委員 1点 ■参加 0.5点			
行事名	役割	月日	ポイント
			0.0
			0.0

ポイント小計
0.0

センター行事への参加

■準備委員 1点 ■参加 0.5点			
行事名	役割	月日	ポイント
			0.0
			0.0

ポイント小計
0.0

4. 社会貢献

領域合計点へ

ポイント合計
0.0

(1)学内

(a)医学部への貢献

研究指導

■大学院研究指導 1名 10点					
領域	指導対象者氏名	研究課題	期間	人数	ポイント
					0.0
					0.0

ポイント小計
0.0

(b)病院への貢献

診療

■外来診療 1コマ(半日)1点				
診療科	コマ/週	期間	週数	ポイント
				0.0
				0.0

ポイント小計
0.0

(c)大学公開講座講師

■公開講座講師 10点 ■(癌プロジェクト公開講座も含む)			
公開講座名	開催日	タイトル	ポイント
			0.0
			0.0

ポイント小計
0.0

(2)学外

(a)学会

(i)国際または全国規模の役員

■全国規模の学会の理事・監事 20点 ■評議員・代議員 10点 ■その他の委員 5点			
学会名	役職	期間	ポイント
			0.0
			0.0
			0.0

ポイント小計
0.0

(ii)地方会の役員

■地方会の理事・監事 10点 ■地方会レベルの役員 5点 ■看護協会の役員 5点			
学会名	役職	期間	ポイント
			0.0
			0.0
			0.0

ポイント小計
0.0

(iii)学会開催

■全国規模の学会の会長 20点 ■全国規模の学会の委員 3点 ■地方会の会長 10点 ■地方会の学会開催時の委員 1点				
開催学会名	開催日	開催場所	役職	ポイント
				0.0
				0.0
				0.0
				0.0

ポイント小計
0.0

(b)政府

■委員会など(10点)			
委員会の名称	名前	期間	ポイント
			0.0
			0.0

ポイント小計
0.0

(c)自治体

■委員会など(5点)			
委員会の名称	名前	期間	ポイント
			0.0
			0.0

ポイント小計
0.0

(d) 新聞・テレビ報道

■全国レベル 20点
■地方レベル 10点

メディア名	月日	内容	レベル	ポイント
				0.0
				0.0

ポイント小計
0.0

(e) 交流

(i) 教育・研究連携

■講習会・研修会の講師
3時間を超えるもの 2点
3時間以内のもの 1点

組織名	月日	開催場所	規模(参加者数)	時間区分	時間	内容	ポイント
							0.0
							0.0
							0.0

ポイント小計
0.0

(ii) 他大学での講義

■講義 1コマ1点

大学・学部名	授業科目名	学年	学期	講義コマ数	ポイント
例) A大学	分子病態学	3	前期	1	1.0
					0.0
					0.0
					0.0

ポイント小計
0.0

(iii) 医療連携

■ 1回1点

組織名	回数	月日	場所	規模	時間	内容	ポイント
							0.0
							0.0

ポイント小計
0.0

(iv) 職能団体などの委員

■委員 2点

組織名	委員の名称	名前	期間	ポイント
				0.0
				0.0

ポイント小計
0.0

(3) 自由記述

■ 太枠の中を ダブルクリック すると入力できます。
■ 改行は ALTキーを押しながらENTERキー でできます。
■ 欄が足りなくなったら 行の挿入 で増やせます。

(自由記述欄)

部門・所属一覧

部門	所属	部門	所属
基礎	＜基礎科学部門＞哲学	臨床	＜診療科＞消化器外科
	＜基礎科学部門＞心理学		＜診療科＞心臓外科
	＜基礎科学部門＞数学		＜診療科＞血管外科
	＜基礎科学部門＞物理学		＜診療科＞呼吸器外科
	＜基礎科学部門＞化学		＜診療科＞乳腺・内分泌外科
	＜基礎科学部門＞生物学		＜診療科＞整形外科
	＜基礎科学部門＞外国語		＜診療科＞皮膚科
	＜基礎医学部門＞解剖学講座		＜診療科＞泌尿器科
	＜基礎医学部門＞生理学講座		＜診療科＞産科・婦人科
	＜基礎医学部門＞生化学講座		＜診療科＞眼科
	＜基礎医学部門＞薬理学講座		＜診療科＞眼形成・眼窩・涙道外科
	＜基礎医学部門＞病理学講座		＜診療科＞耳鼻咽喉科・頭頸部外科
	＜基礎医学部門＞感染・免疫学講座		＜診療科＞放射線科
	＜基礎医学部門＞衛生学講座		＜診療科＞麻酔科
	＜基礎医学部門＞公衆衛生学講座		＜診療科＞総合診療科
	＜基礎医学部門＞法医学講座		＜診療科＞形成外科
			＜診療科＞救命救急科
			＜診療科＞睡眠科
臨床	＜臨床医学部門＞内科学講座（消化管内科）		＜診療科＞病理診断科
	＜臨床医学部門＞内科学講座（肝胆膵内科）		＜診療科＞疼痛緩和外科
	＜臨床医学部門＞内科学講座（循環器内科）		＜診療科＞歯科口腔外科
	＜臨床医学部門＞内科学講座（呼吸器・アレルギー内科）		＜中央診療部＞中央臨床検査部
	＜臨床医学部門＞内科学講座（内分泌・代謝内科）		＜中央診療部＞救急診療部
	＜臨床医学部門＞内科学講座（神経内科）		＜中央診療部＞周産期母子医療センター
	＜臨床医学部門＞内科学講座（腎臓・リウマチ膠原病内科）		＜中央診療部＞脳卒中センター
	＜臨床医学部門＞内科学講座（血液内科）		＜中央診療部＞臨床腫瘍センター
	＜臨床医学部門＞内科学講座（糖尿病内科）		＜中央診療部＞臨床腫瘍センター腫瘍内科部門
	＜臨床医学部門＞精神科学講座		＜中央診療部＞臨床腫瘍センター外来化学療法部門
	＜臨床医学部門＞小児科学講座		＜中央診療部＞緩和ケアセンター
	＜臨床医学部門＞外科学講座（消化器外科）		＜中央診療部＞脊椎脊髄センター
	＜臨床医学部門＞外科学講座（呼吸器外科）		＜中央診療部＞臨床研究支援センター
	＜臨床医学部門＞外科学講座（乳腺・内分泌外科）		＜中央診療部＞先制・統合医療包括センター
	＜臨床医学部門＞外科学講座（腎移植外科）		＜中央診療部＞脳血管内治療センター
	＜臨床医学部門＞外科学講座（心臓外科）		＜中央診療部＞パーキンソン病総合治療センター
	＜臨床医学部門＞外科学講座（血管外科）		＜中央診療部＞頭蓋底外科センター
	＜臨床医学部門＞脳神経外科学講座		＜病院＞医療安全管理室
	＜臨床医学部門＞整形外科科学講座		＜病院＞卒後臨床研修センター
	＜臨床医学部門＞皮膚科学講座		＜病院＞医療情報部
	＜臨床医学部門＞泌尿器科学講座		＜メティカルセンター＞メティカルセンター
	＜臨床医学部門＞眼科学講座	その他	＜寄附講座＞造血細胞移植振興寄附講座
	＜臨床医学部門＞耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座		＜寄附講座＞分子標的医薬寄附講座
	＜臨床医学部門＞産婦人科学講座		＜寄附講座＞腎疾患・移植免疫学寄附講座
	＜臨床医学部門＞放射線医学講座		＜寄附講座＞地域総合診療医学寄附講座
	＜臨床医学部門＞麻酔科学講座		＜寄附講座＞分子疫学・疾病制御学寄附講座
	＜臨床医学部門＞総合診療医学講座		＜寄附講座＞先進糖尿病治療学寄附講座
	＜臨床医学部門＞形成外科学講座		＜寄附講座＞近視進行抑制寄附講座
	＜臨床医学部門＞リハビリテーション医学講座		＜医学部＞産業保健科学センター
	＜臨床医学部門＞臨床感染症学講座		＜医学部＞運動療育センター
	＜臨床医学部門＞病理診断学講座		＜医学部＞医学教育センター
	＜臨床医学部門＞疼痛医学講座		＜医学部＞シミュレーションセンター
	＜臨床医学部門＞歯科口腔外科学講座		＜医学部＞IR室
	＜診療科＞消化管内科		＜医学部＞総合医学研究機構動物実験部門
	＜診療科＞肝胆膵内科		＜大学＞研究創出支援センター
	＜診療科＞循環器内科		＜大学＞災害医療研究センター
	＜診療科＞呼吸器・アレルギー内科		＜大学＞加齢医科学研究所
	＜診療科＞内分泌・代謝内科		＜大学＞加齢医科学研究所神経iPS細胞研究部門
	＜診療科＞神経内科		＜大学＞分子医科学研究所
	＜診療科＞腎臓・リウマチ膠原病内科		＜大学＞分子医科学研究所第一部門
	＜診療科＞血液内科		
	＜診療科＞糖尿病内科		
	＜診療科＞精神神経科		
	＜診療科＞小児科		
		看護学部	＜看護学部＞看護学部